

経営改善支援の取組み状況(平成17年4月～平成18年3月の活動)

当金庫は地域経済が低迷を強めている現在、業績低迷に苦慮している地域企業の皆様に対して親身になって相談を受け、業績・財務内容について一歩踏み込んだ分析を行い、改善策、経営改善計画へのアドバイスを行うなど、資金面だけでなく、より生きた支援ができるよう取組んで参りました。

平成17年8月、リレーションシップバンキング・アクションプログラムの後継として、金融改革プログラムに基づく地域密着型金融推進計画を策定し、事業再生・中小企業金融支援に向けた主な取組みとして、融資審査態勢の強化、経営改善支援先のランクアップを目指し、以下の施策等について鋭意取組んでおります。

融資審査態勢の強化に向けた主な取組み状況

主な施策	主な取組み状況
企業の定性情報を重視した各種モニタリング手法、キャッシュフローを重視したローンレビュー手法の定着化・有効活用	融資担当役員者会議、庫内セミナー、臨店指導等の実施により、企業実態把握のための各種モニタリング手法の周知及びスキルアップを図るとともに、日常指導を通じて活用の定着化に取組みしている。 6～7月に事業資金対応37先に対する業況モニタリングを実施、企業実態把握強化として取組みした。
中小企業支援・実態把握強化へ向けての人材育成、スキル向上	企業再生支援、目利き能力向上等含めた研修計画に基づき各種外部研修へ積極的に職員を派遣。 東信協「情報玉手箱」テキストの配布とレポート提出を義務付け、企業実態把握、目利き能力、企業支援ノウハウ等について継続的に自己研鑽を推進している。 平成18年2～3月の計4回、若手職員を中心とした「融資能力・提案能力強化セミナー」を開催、財務諸表による企業実態把握力、目利き等中小企業支援に係るスキルアップに取組みした。

経営改善支援先のランクアップへ向けての主な取組み状況(要注意先債権等の健全債権化等の強化に関する実績)

主な施策	主な取組み状況
経営改善支援に関する体制整備状況	経営改善支援先の選定基準、支援体制、手法等をまとめたマニュアルに基づき、対象企業を選定。H17～18年度においては50先以上を目標として改善支援に取組みしていく。 支援体制は「金融改革プログラム推進委員会」及び各営業店の管理者から構成する「支援チーム」により支援策等を検討のうえ経営改善支援に取組む。 定期的に推進委員会と支援チームにより進捗ヒアリングを開催、企業の実態把握を行いながら財務指導中心とした助言・支援に取組む。
経営改善支援の取組み状況	H17年度の対象先選定にあたっては、地域経済情勢を勘案し、土木建築関連業を主体に、51先(ランクアップ目標2先、ランクダウン防止目標49先)を選定。 5月より支援先に対し、改善に向けて課題を捉え、財務分析を主体とした指導・助言を行うとともに、支援チームにより支援方針に基づいた業況・改善進捗状況のチェックを行い、ランクアップに向けて取組みを行った。 上記の結果、ランクアップは2先の実績となった。地域経済が低迷を強めている状況にあり、支援先に対するランクダウン防止など、今後も一層の支援強化に努めていく。

< 経営改善支援の取組み実績 >

(H17年4～H18年3月)

	期初債務者数	うち経営改善支援取組み先			
		うち期末に債務者区分が上昇した先	うち期末に債務者区分が変化しなかった先		
正 常 先	383	13		11	
要注意先	うちその他注意先	207	32	1	25
	うち要管理先	19	5	1	2
破綻懸念先	14	1	0	1	
実質破綻先	16	0	0	0	
破綻先	24	0	0	0	
合 計	663	51	2	39	

今後に向けての課題

- ・中小企業金融再生に向けた取組みについて、企業支援スキル、目利き能力や企業実態把握能力について一層の充実強化が課題と認識しており、今後についても各種モニタリング手法の定着化・有効活用を目指し、態勢強化を図って参ります。
- ・人材育成についても、日常の業務を通じて、また各種セミナーの実施等により、継続してレベル向上に取組みして参ります。
- ・当地域における経済環境はさらに低迷を強めており、今後は経営改善支援先等に対する一層の支援強化が必要と考え、「支援チーム」を中心とした実効性ある支援対応に鋭意努めて参ります。